

いも類を学んだ歩み

女子栄養大学 栄養科学研究所 准教授 根岸 由紀子

女子栄養大学（香川栄養学園）へ来て20年となります。

まだ、いも類との取り組みは未熟ですが、いもと、いも類振興と私との関わりを書かせて頂けて感謝しています。「いもの娘（こ）」である学生の学びと、「いもづる」で関わってきた人々と仕事に感謝しています。

女子栄養大学の「いもの娘（こ）」である女子学生達は、まず入学して記念室（資料室）で創立者である香川綾の日記（食事記録）を知る事になります。いも（蒸かし芋）と牛乳の食事が紹介されています。毎日いも類を100g食べましょうとの持論でした。おいも好きは綾先生の長女である現学長香川芳子先生も同様で、スーパーの店頭焼きいも機や焼きいもの値段まで良くご存知です。私の秋の学園祭での「おいもやさん」を楽しみにしていच्छいます。

おいも大好きな学生も多く、大学の農園での教育は、香川綾先生の作物を育てる事から知るという方針で、前教授の山口文芳先生は学生を「1坪地主」とし（実際は1×2mすなわち2平方メートル）、一人で1枚の畑を管理し、観察して収穫物を計量し、食べて感想をレポートで提出させています。自由に草取りや作業に来て、他の野菜やハーブ類を育てたり収穫して持ち帰り

ます。無農薬で、自分で育てて収穫し、丁寧に洗った野菜はおろそかにせずきちんと食べているようです。3月からじゃがいも班がスタートし、さつまいも班は5月に植え、収穫後は、引き続き冬野菜をやっても良いというスケジュールです。私は教員サイドの担当者ですが、現農園管理者の鷲見先生と秋田さんは、収穫祭や手作り加工品と枠を広げ、特論「農園体験」は大人気です。ぎっしりと詰まった授業の合間に行く「農園」は、癒しの場のようなです。

大学の付属施設である栄養科学研究所が私の職場ですが、外部からの委託研究や依頼業務の窓口になっています。前所長の時に、矢野氏が来所下さり、いも類振興のお仕事をご紹介頂いたのが、この道に入ったきっかけです。

九州地方のじゃがいもの成分分析、有明の干拓地の経年変化は楽しみでした。愛野馬鈴薯支場の方々には数年に渡りお世話になり、分けて頂いた「アイユタカ」「普賢丸」「デジマ」のファンが育ち、「今年もありますか？」と訪ねて下さる楽しみもあります。学園祭初参加の折は、日本いも類研究会の方が、何人も応援に来て下さいました。

北海道の芽室にも、カラフルポテトのお仕事で何回か訪ね、後にホテルのじゃがいも料理を食べにゼミ旅行をしました。

故梅村芳樹先生のご自宅へ押しかけた事もありました。梅村先生は、嫌がらずに、じっくり話して下さる方で、本を出版されるほど料理にもお詳しく、以後私が「食品の研究は、最後の料理まで考えて啓発活動をする事」を誓うきっかけを下さいました。いもの研究者、いもを愛する人が多いことを知り、それは今のポテトメーリングリストでも同じです。

下戸の私は芋焼酎のオンザロックを覚えました。酒飲みからすると邪道かもしれませんが。

海外旅行をしても、いも料理を探して食べて、料理本を買い求め、市場を歩いて値段を調べるのが、習慣となりました。

現在は、学内で「おいもの先生」あるいは「発酵食品の先生」としてちょっとは知られ、ゼミに集まる学生にも「おいもやさん」が定着し、農園や若葉祭（5月末頃）と駒込祭（10月末頃）で走り回っています。今年の農園は、じゃがいも班が80名、さつまいも班が160名スタートしました。秋の収穫祭が楽しみです。学生は卒業して、食の現場や健康教育の場所で、食育（今はその対象は子供ではなく消費者と考えます。）の実践者や指導者となっていきます。近隣の子供たちにとっても、いも類は総合学習の良いテーマのようです。

いも類としては、じゃがいも、さつまいもだけでなく、大学の所在地が埼玉県であることから、埼玉県のさといもの仕事もしました。生で皮を剥く作業がきつく、肩凝りと腕の痺れで倒れ、脳梗塞と間違われて入院したのも今では貴重な体験です。

最近は、「すいおう」の葉の粉末の利用法を考えるグループへ入れて頂いたり、「いもご」すなわち「むかご」の研究も始めました。やまのいもの葉腋につく肉芽で、新しい物ではないのですが、もっと収穫すれば、売れるので、皮ごと料理し、うまく利用されたと願い、成分分析、料理の提案など啓発活動もしています。いもは広くて深いと改めて感じています。

小学生の時に、社会科のテストで、埼玉県の都市と産業の解答で、「川口の鋳物」と答えるべきところを、「川越のいも」と答えて、満点を逃し、「お前は何を考えているんだ?」と言われたのが、ご縁のスタートだったのかもしれません。川越近隣に住み、街中で井上先生と出遭う地域です。そして終生の仕事と思い働いています。

まだまだ、今後も「いも娘」を育て、いもづる式の人との関係を大切に、いも類との生活を楽しんでいきたいと願っています。